

岩手研本報

No.221

編集・発行

岩手県公立小中学校

事務職員研究協議会

総務部

令和6年12月5日

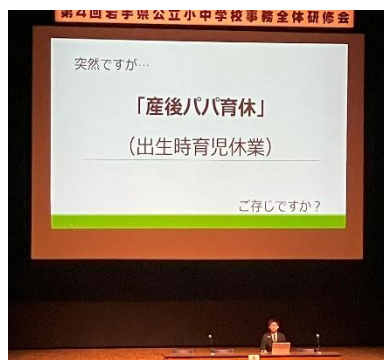
第25回東北地区公立小中学校事務研究大会岩手大会

第4回岩手県公立小中学校事務全体研修会

令和6年10月10日～11日の2日間の日程で、12年ぶりの東北地区公立小中学校事務研究大会(兼 第4回岩手県公立小中学校事務全体研修会)が開催されました。

子どもの豊かな育ちを根底に据えた、“笑顔が広がる いい学校をめざして”学校事務の将来像を交流しあった、第25回大会でしたが、各県からの参加者、そして、主管した岩手県の学校事務職員にとって広い視野と専門性を高めるための良い機会となりました。

第25回東北地区公立小中学校事務研究大会 第4回岩手県公立小中学校事務全体研修会



第1分科会

〈第1分科会A 発表者 釜石市立釜石東中学校 阿部貴大さん〉

昨年度の県大会から東北大会までの準備と当日の発表を通して、支部の皆様に支えられながら、自分自身も成長できたと感じています。また、なかなか経験できるものではない機会と重要な役割を任せていただいたことに感謝しています。

自分の考えと支部としての考え方、さらには県事務研としての考え方をすり合わせていく上で、事務研の在り方を考える良い機会となりました。今回の経験をこれからの研究活動に活かしていきたいと思います。

他県の発表の後に岩手の発表や討議を振り返ると「事務研はどうあるべきか」「共同実施・共同学校事務室とのすみ分けをどうするか」など、案外贅沢な悩みであると感じました。今ある環境を最大限活用して、課題解決や研究実践に全力で取り組むことが大切だと改めて感じた大会となりました。

第1分科会Bへ参加しました。レポートは山形、青森、宮城の3本。3県とも会員へのアンケートをもとにした発表でした。

山形県はまだ全県での共同実施は行われておらず、モデル校での学校事務の連携・共同実施が行われているとのこと。未実施地区の会員は概ね共同実施に期待を寄せているが、3割弱は取り組むことに不安やわからなさを感じているようです。岩手でも始まるまではいろいろな意見があったことが思い出されました。

青森は、初期から積極的に共同実施を取り入れてきた県でしたが、その第1世代が引退して年齢構成にアンバランスが生じているとのこと。岩手も1級主事が1/3を占める状況、他人事ではないと感じました。

宮城では事務研の新しいビジョンを策定するうえでウェルビーイングという考え方を取り入れようとしているようです。ウェルビーイングとは個人のみならず個人を取り巻く場も良い状態であることを意味するとのこと。これに「客観的」と頭につけていますので誰が見てもそう見えるということでしょうか。果たしてどのようにして実現していくのか気になります。

＜盛岡市立北厨川小学校 小田中庄司さん＞

第2分科会

〈第2分科会 発表者 久慈市立長内小学校 村田昌之さん〉

東北大会という大舞台で発表させていただきありがとうございました。研究集録の原稿や発表資料の作成など、苦労はありましたが、先輩方の支えもあり何とか発表につなげることができました。

今回の発表は私が研究推進委員を務めていた時期からの内容で、研究を始めた目的や経緯が分かっていた立場であり、当時の想いも含めて発表させていただきました。

また、他県の方々とも交流する機会があり、良い刺激になりました。まだまだ発展途上の研究なので、今後も改善、発展させていければと思います。

この大会は、発表者としての経験はもちろん、他県の取組をきくことができ、非常に勉強になりました。この経験を糧に日々成長できればと思います。

今回初めての東北大会参加だったので、東北6県の発表を聞いてみたいと思い、第2分科会へ参加しました。どの県の発表も参考にしたい取組でしたが、なかでも青森県の男性教職員の育児休業についての発表がとても興味深かったです。これまで男性教職員の育休取得にふれる機会がありませんでしたが、パパ職員として育休取得した側、事務職員として事務処理する側としてのそれぞれの立場からみえてきたことを具体例を交えて発表くださり、男性職員の育休取得について知識を深めることができました。

また、分科会の研究・発表では主事級事務職員が多くみられ、すごく刺激を受けました。同世代の事務職員が活躍している姿はとてもまぶしく憧れの感情がわいてきましたし、これからもっと頑張ろう！という気持ちが高まりました。東北6県それぞれの発表と各地方のお国言葉を聞くことができた第2分科会、有意義な時間を過ごすことができました。

2日目の天津木村さんの記念講演では、岩手県の魅力をたくさんお話ししてくださいました。これまで当たり前だと思っていたことが実は岩手県の魅力なんだということを改めて知る良い機会となりました。

最後に運営に携わった皆様、大変おつかれさまでした。とても良い研修の機会となりました。ありがとうございました。

＜盛岡市立山岸小学校 畑村 鮎さん＞

今回の研究大会を通して、岩手県内の他支部はもちろん、他県の情報や取組の様子を聞くことができました。学校事務職員が集まって、普段の業務について研究した成果や課題を発表、交流し合うことの意義やこのような場がいかに貴重な場であるか実感しました。

私は第2分科会へ参加しましたが業務支援マニュアルの作成や「事務職員の不在時の対応」など、どれも大変興味深い内容でした。職員それぞれの生活状況が刻々と変化中、実務経験がないと不安に感じることが多い事務処理の際にそれらを中心としたマニュアルがあるととても心強いと感じました。

また、事務職員が長期間不在になったときの対応についても、日頃から管理職の方々を含め校内で対策することが大切だと思いました。発表を聞きながら、近隣校の事務職員の支援には限りがあることを想像し、普段から業務の進捗状況を整理しておくことが必要であると深く考えさせられました。

今回が初めての研究大会への参加でしたが、とても刺激を受けました。自分にできることを積極的に取り入れ、日々の業務に活かしていきたいと強く感じ、充実した研究大会参加になりました。

＜八幡平市立寺田小学校 主濱瑛梨さん＞

第25回東北事務研岩手大会兼第4回岩手県事務研全体研修会の運営に携わった皆様、長い準備期間も含め、おつかれさまでした。私も令和6年3月まで県の常任理事として準備等に携わりましたが、開催目前にして県立学校に異動となってしまい、心苦しい思いをしておりました。大会が無事に終了したことは大変喜ばしく思います。

第2分科会での育児休業について「サービスを担う事務職員」と「育児休業を取得した父親職員」という2つの立場から見えた違いについての発表は、イメージが湧きやすい内容で、勉強になりました。

また、秋田県の人事異動を通して「今の自分が目指す」事務職員の理想像の発表は、まさに今、私が置かれている状況と重なり、共感し、将来のキャリア形成や事務職員像を現実化するための参考になりました。

2日目の記念講演では、まさか自分の出身である一戸町の食堂の名前が出るとは思わず「さすが、いわて応援芸人だな」と感心しました。これからは、天津木村さんを応援しようと心に決めた時間になりました。

2日間に渡り、とても有意義な研究大会でした。改めまして、運営された実行委員の皆様、参加した皆様、おつかれさまでした。

＜岩手県立気仙光陵支援学校 寺下賢希さん＞

この度の研究大会において、1日目のみ第2分科会に参加しました。

東北6県それぞれの発表のなか、特にも岩手県、宮城県、秋田県の発表では、地区の事務研等において、また個人レベルで、積極的な研修・研究が行われているものと感じました。

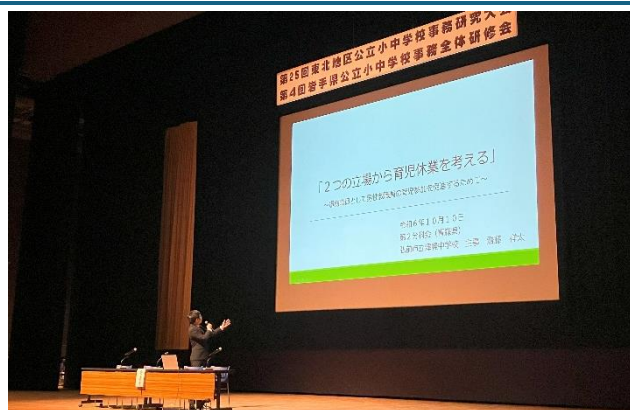
岩手県九戸支部の発表では、主事と臨時事務職員が全体の7割を占めている支部の現状の中、若手職員も積極的に研修に取り組んでいる発表でした。私自身も九戸支部内の小学校事務職員採用でしたが、私が採用された平成元年度から数年間、毎年多くの新採用事務職員が採用されました。2年目の事務職員が初任事務職員への指導をすることが定着していたことを思い出します。

宮城県の発表は、「事務職員不在時の対応」という具体的な取組みに特化した発表でした。学校において1人配置の事務職員の困りごとを一つずつ事例を紹介し、活用できるようにした発表でした。岩手県でも取り入れ皆で活用すればよいのではないかと、思いました。

秋田県の発表は、「子どものよりよい未来を支えたい」。発表者は、県立学校採用後、人事異動で小学校に赴任して2年目の事務職員。自己分析を通し、大きな未来を創造しての発表でこのような若者がいることに心強いと感激しました。他の県の発表も素晴らしかったのはもちろんですが、特にも印象的な発表について感想をお伝えします。

今搬の第25回東北大会の開催にあたり、企画・運営された役員、スタッフの皆様大変おつかれさまでした。ありがとうございました。

＜県南教育事務所企画総務課 羽柴典光さん＞



第3分科会

〈第3分科会発表 一関支部特別チーム〉

◎一関市立弥栄小学校 菅原 謙さん

今回、第25回東北事務研岩手大会に発表者として参加しました。昨年度の県大会での発表を経験しましたが、当日の参加者の多さに緊張しました。私の拙い発表を最後まで聞いていただいた皆様や分科会のなかでサポートくださった一関支部の皆様に感謝申し上げます。不慣れな部分もありましたが良い機会をいただいたなと思います。

県外参加者からも各地の状況や取組等様々伺うことができ、活発な意見交流が行われている様子を見て、グループワーク形式の良さを再認識しました。

◎一関市立中里小学校 岩元優子さん

東北大会という大きな場で、一関支部の研究を岩手特別分科会という形で取り上げてくださり、ありがとうございます。

昨年度、岩手県大会での発表を通して、事務職員が職能団体として学ぶとはどういうことかを深く考えるきっかけをいただいたと思っています。

構成員の減少、年齢構成の二極化、役員のなり手不足、感染症の流行、多忙化など、一関支部だけでなく、研究活動を妨げる要因は多くあるように感じます。それでも、私たち事務職員に求められることはどんどん大きく重くなっています。とても一人では立ち向かえるものではありません。

学校に一人しかいない事務職員が校内で多職種である職員と何かを成し得るためには、つながりを学び、つながった先に行動できる力が必要です。

一関支部の研究活動は話すこと、聞くこと、まとめること、をベースにその時々テーマについて学び、深め、実践する力を身に着けていると実感しています。今大会の分科会発表を通し、また福島先生のご助言から、自分たちがやってきたことが間違っていなかったと自信を持つことができました。この大会発表を通過点とし、次世代へ継承していきたいと思っています。

これからも、支部定例研に行くたびに、安らぎ、発見、実践への意欲に満ちて帰れるような事務研でありたいです。

一関支部の研究活動を体験する企画では、グループワークで発表するだけでなく、他グループが発表した内容を要約して発表するという、緊張感あふれる時間を過ごしました。また、青森県の方と県立中学校の方が同じグループにいらして、それぞれの状況や業務内容について、非常に興味深く聞かせていただきました。

最近時々話題にあがる「事務研は必要か」というテーマ。大変なことは様々あるけれど、事務研があるということもある。研究会や研究大会で見聞きし話したことが、自分の仕事の助けになるし、いつか誰かの仕事に役立つかも说不定。そう思っていますし、そう感じてもらえる活動ができればいいな…などと、改めて感じた東北大会となりました。

〈九戸村立九戸中学校 浅水香織さん〉



編集後記

今号は、第25回東北地区公立小中学校事務研究大会岩手大会の特集となりました。

感想を寄せていただきました皆様には、感謝申し上げます。

若手事務職員の活躍が随所にみられ、将来の事務研も頼もしく感じられる良い大会になりました。

皆様、おつかれさまでした。そして、ありがとうございました。